

早期胃癌研究会 2013 年最優秀症例賞は 戸畑共立病院消化器病センターが受賞

早期胃癌研究会では、毎月原則として 5 例の症例が提示され、臨床所見、病理所見ともに毎回詳細な症例検討が行われている。2003 年より、年間に提示された症例の中から最も優れた症例に最優秀症例賞が贈られることになった。

11 回目の表彰となる早期胃癌研究会 2013 年最優秀症例賞は、戸畑共立病院消化器病センター・酒見亮介氏（現・札幌厚生病院 IBD センター）の発表した「下部直腸に存在する粘膜下層および粘膜層を主体とした amelanotic melanoma の 1 例」に贈られた。2014 年 4 月 16 日（水）、一ツ橋ホール（日本教育会館）で行われた早期胃癌研究会の席上で、その表彰式が行われた。

賞状の贈呈に先立ち、早期胃癌研究会運営幹事会最優秀症例賞選考担当幹事の赤松泰次氏（長野県立須坂病院内視鏡センター）が“この研究会で提示された症例は、その後の運営委員会で検討され、毎月の優秀症例が選ばれる。年間の優秀症例を集めた中から最優秀症例を決めるという過程をとっている。今回は 11 例の中から運営幹事会にて検討、3 例に絞り最終投票を行った結果、2013 年 2 月の例会で提示された本症例が最優秀症例賞に選ばれた”と選考過程を述べた。

続いて、早期胃癌研究会運営委員長の齊藤裕輔氏（市立旭川病院消化器病センター）から、賞状と賞金が贈呈された。齊藤氏は“誠におめでとうございます。最終選考でも圧勝でした。大変すばらしい症例でした”と評価した。

酒見氏は“本日は早期胃癌研究会という歴史ある研究会におきまして年間最優秀賞をいただき、誠にありがとうございます。北九州という地方からこのような研究会に症例提示をしたいと思い、日々過ごしてまいりました。このような賞をもらった者として内視鏡医、消化器内科医として研鑽を積んでいく次第であります。当会の選考委員、運営委員の先生方に厚くお礼申し上げます”



▲最優秀症例賞を受賞した酒見亮介氏



▲齊藤裕輔氏より賞状と賞金の授与が行われた

と受賞の挨拶を述べた。

引き続き酒見氏より、受賞症例の解説が行われ、この貴重な症例の発表が終わると会場内から盛大な拍手が贈られた。